

① 2015年末の高齢者の大掃除実態

- ・実施率は53.7%。65歳以上の高齢者の方が、大掃除に対する取り組み意識は高い。
- ・高齢者はイスや脚立を使った高所の掃除に不安を感じている。

高齢者の2015年末の大掃除実施率は53.7%でした。そのうち、60歳～64歳の実施率は51.3%、65歳以上は55.5%で、**65歳以上の高齢者の方が大掃除に対する取り組み意識が高い**ことがわかりました。

高齢者に、還暦を過ぎてから掃除に負担を感じるようになった場所と理由について尋ねたところ、上位3カ所は「レンジフード・換気扇」(51.2%)、「窓・網戸」(35.7%)、「照明器具」(29.4%)となりました。理由は、「**イスや脚立を使った、高所の掃除に不安を感じる**」(58.1%)が最も高く、次いで「面倒になった」(45.0%)という結果となりました。また、「面倒になった」(60歳～64歳：51.5%、65歳以上：40.4%)の回答を見ると、**60歳～64歳の高齢者よりも65歳以上の高齢者の方が掃除に対して意欲的**であることがわかりました。

12月は、掃除中に高齢者が高所から転落するケースが多く発生しています。不安を感じる場合は、ご家族やプロにハウスクリーニングを依頼するのもひとつの手段です。

図1：2015年末の高齢者の大掃除実施率

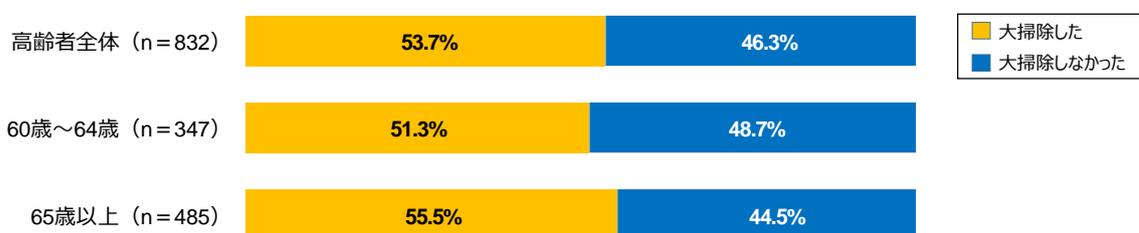


図2：還暦を過ぎてから掃除に負担を感じるようになった場所

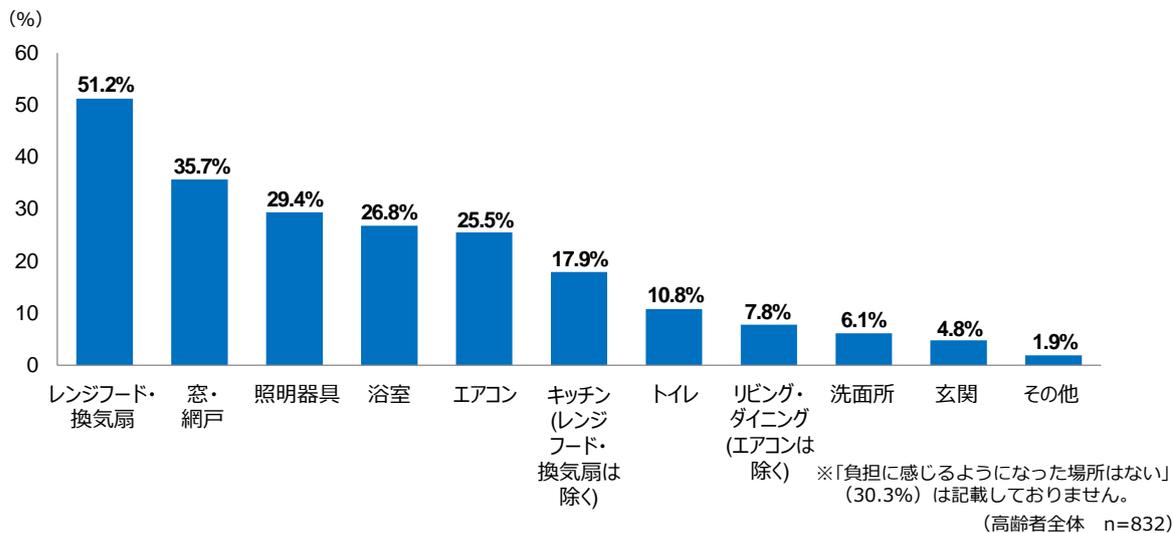
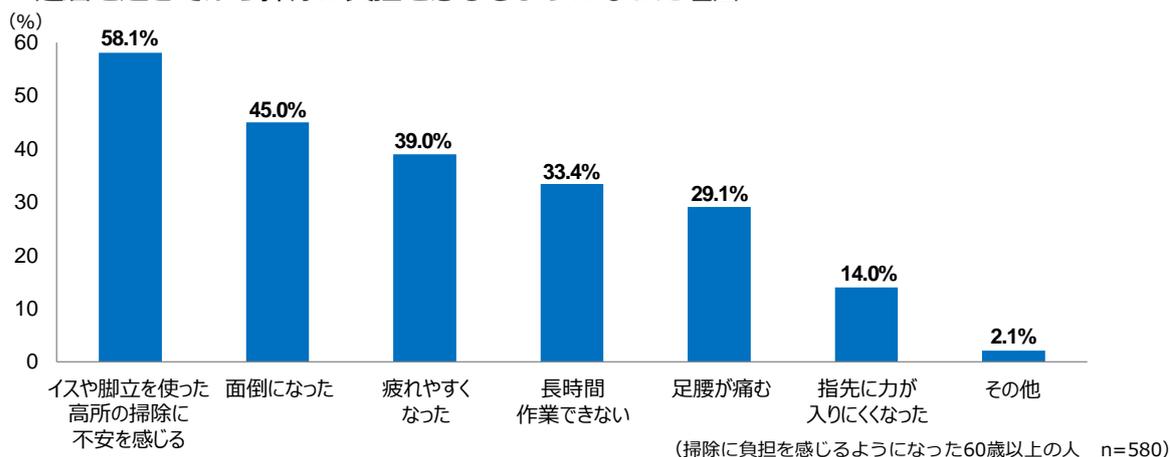


図3：還暦を過ぎてから掃除に負担を感じるようになった理由



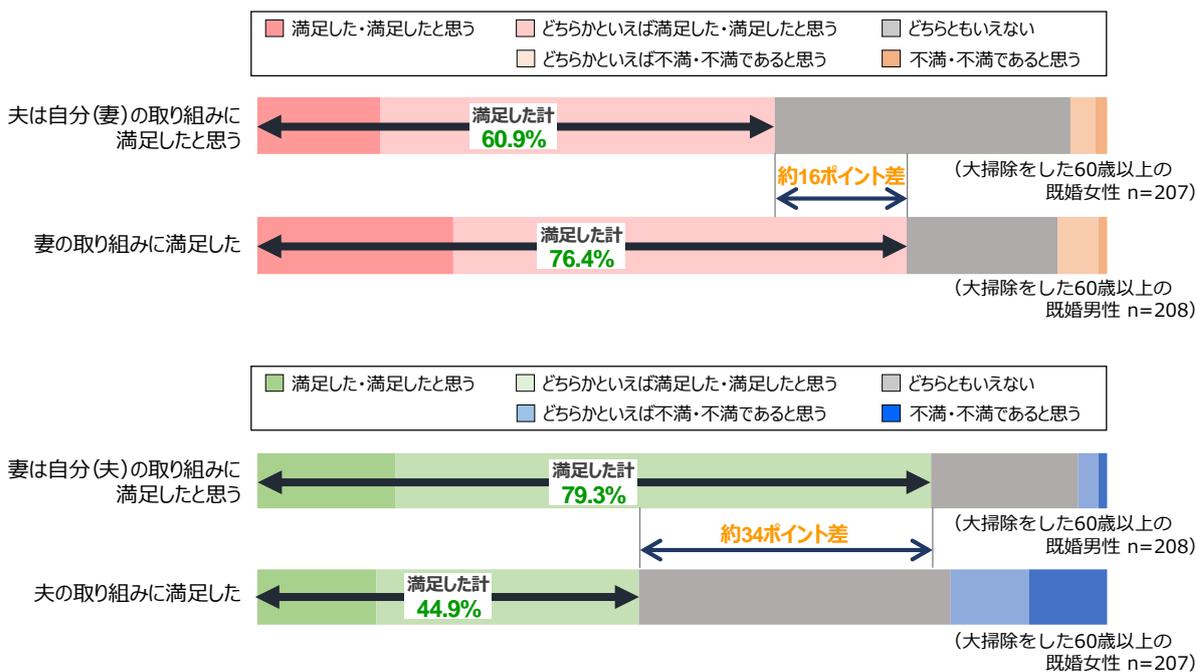
② 高齢者夫婦間の大掃除の満足度

- ・妻は自己評価が低く、夫は自己評価が著しく高いことが判明。妻は夫の大掃除を評価していない。
- ・大掃除の取り組みの質を高めるには、“コミュニケーションと目標共有”が重要。

2015年末の大掃除で、自分の大掃除の取り組みに対する配偶者の満足度と、配偶者の取り組みに対する満足度を高齢者に尋ねました。自分の大掃除の取り組みに対して「**夫が満足したと思う**」と回答した妻は**60.9%**だったのに対し、**妻の取り組みに対して「満足した」夫の割合は76.4%**でした。妻は自分の大掃除の取り組みについて**自己評価が低い傾向にある**ことがわかりました。一方、自分の大掃除の取り組みに対して「**妻が満足したと思う**」と回答した夫は**79.3%**となりましたが、**夫の取り組みに対して「満足した」妻の割合は44.9%**で、**約34ポイントもの乖離**が見られました。**夫の自己評価は著しく高いものの、妻は夫の取り組みに対してあまり評価をしていない**ことがわかりました。

夫の大掃除の取り組みの質を高め、評価の乖離を縮めるには、大掃除に取り組む前に**夫婦間で“コミュニケーションと目標共有”**することがポイントです。夫に対して、どの場所を、どのような段取りで、どのような状態にしてもらいたいかを明確に伝え、わかりやすい目標（この汚れが落ちたらOKなど）を共有することで、夫の積極性や集中力を引き出し、お互いが満足できるキレイな状態で年末年始を迎えましょう。

図4：「自分の取り組みへの配偶者の満足度」と「配偶者の取り組みへの満足度」



<参考> 大掃除実施前のプランニング

事前に決めておくべきこと

- 掃除するところを決める。
- 掃除する場所ごとに掃除方法を考える。
- 誰がどこを担当するか決める。
- 掃除する場所ごとに、どのような状態を目指すか目標を共有する。
- 実施する日を決めて、カレンダーに掃除場所と担当者を記入する。

夫婦2人、1日3時間で取り組む場合の大掃除プラン例

	場 所	担 当
1時間目	照明器具	夫
	窓ガラス・網戸	妻
2時間目	換気扇・キッチンの壁	夫
	玄関	妻
3時間目	風呂・洗面所・トイレ	妻
	棚・家具・全体の床	夫
	流し台まわり・ガスレンジ	妻

③ 実家の大掃除の手伝い実態

- ・自分の子どもに大掃除を手伝ってもらいたい高齢者は約5割。不安な高所の掃除を希望。
- ・掃除をする側もされる側も、義実家の大掃除は遠慮気味。

高齢者に、同居していない“自分の子ども”に大掃除を手伝ってもらいたいかについて尋ねたところ、「**手伝ってほしい**」(49.5%)と「**手伝ってほしくない**」(50.5%)の割合はほぼ半々でした。また、自分の子どもに大掃除を手伝ってほしい場所は、「窓・網戸」(44.3%)、「レンジフード・換気扇」(43.0%)、「照明器具」(41.1%)の順で高く、いずれも**高齢者が負担に感じる高所を掃除してほしい**と思っていることがわかりました。一方、同居していない“自分の子どもの配偶者”に大掃除を手伝ってもらいたいかについて尋ねたところ、「**手伝ってほしい**」人は**36.6%**、「**手伝ってほしくない**」人は**63.4%**となりました。「遠慮がある」、「気を遣う」、「負担や迷惑をかけたくない」という気持ちから「手伝わなくてもよい」という気持ちが強いようです。

また、20歳以上の男女に自分の実家および配偶者の実家の大掃除を手伝いたいかについて尋ねたところ、自分の実家の大掃除を手伝いたい人は男女とも46.4%になりました。一方、配偶者の実家の大掃除を手伝いたい人は、男性が41.2%だったのに対し、女性は23.8%で低い結果となり、**20歳以上の女性は男性よりも配偶者の実家の大掃除に腰が引けている様子**がうかがえます。

図5：自分の子ども／自分の子どもの配偶者に大掃除を手伝ってもらいたいか

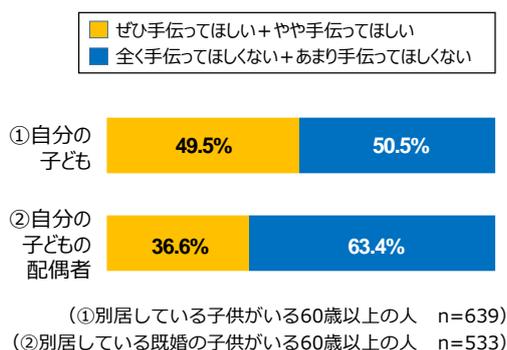


図6：大掃除で自分の子どもに手伝ってほしい場所

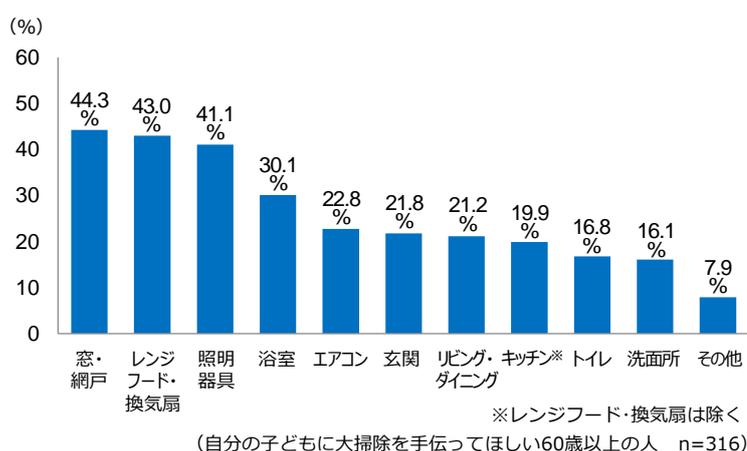
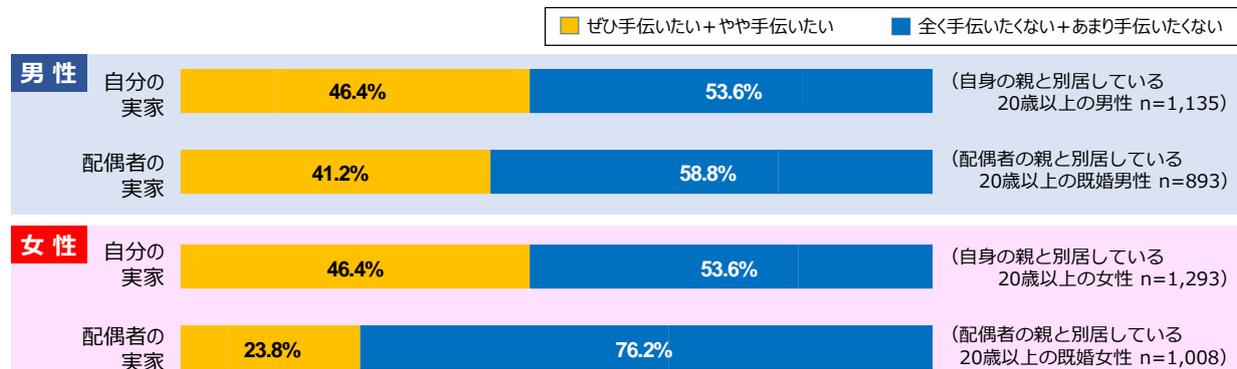


図7：自分の実家／配偶者の実家の大掃除を手伝いたいか



【 調査概要 】

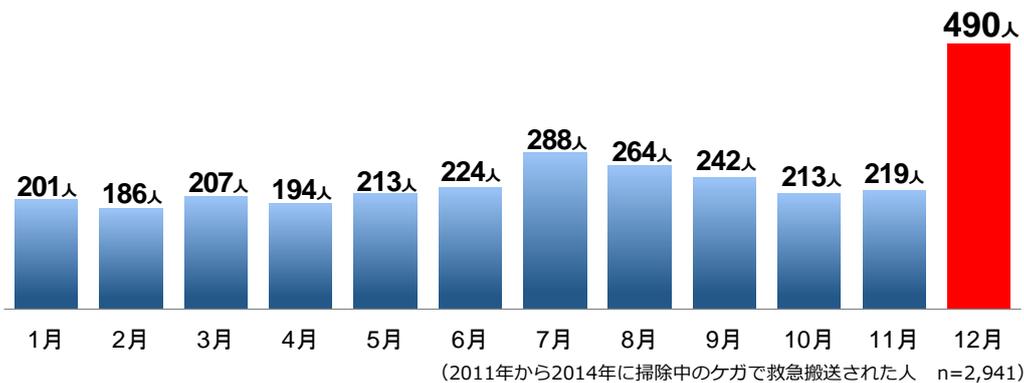
- 調査目的 : 2015年末の大掃除についての意識・実態把握
- 調査対象 : 20歳以上の男女
- 調査地域 : 全国(エリア区分：北海道・東北・関東・中部・近畿・中国・四国・九州)
- 調査方法 : インターネットリサーチ
- 調査時期 : 2016年1月29日(金)～1月31日(日)
- サンプル数 : 4,160サンプル [うち高齢者(60歳以上) 832人]
※全データに対してn数30未満のものは参考値として記載

<参考> 東京消防庁「掃除中の事故による救急搬送状況」

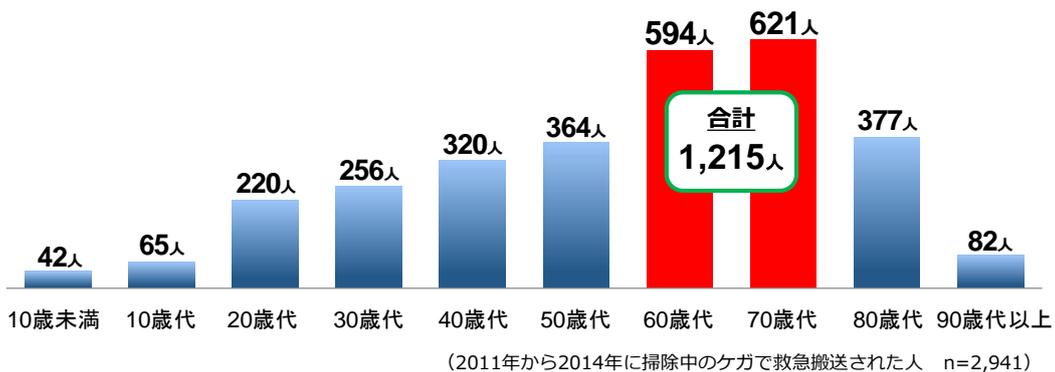
東京消防庁によると、掃除中のケガによる救急搬送者は12月が最も多く、60代・70代が全体の約4割を占めています。また、「居室や寝室」で“ころぶ”や「脚立・踏み台・足場」から“落ちる”事故が多い状況です。

高齢者が大掃除をする際は、安全を第一に取り組みましょう。とくに高所の掃除では足場のしっかりした台や脚立を選び、片手は固定された家具に掴まるなどして、バランスを崩さないようにしましょう。

- 2014年の掃除中のケガによる救急搬送は**779人**（昨年比 +69人）。
- 月別の救急搬送者は、大掃除をする**12月が最も多い**。



- 救急搬送者は、**60代と70代が全体の約4割**を占める。



- 多いケガは「居室・寝室」で“ころぶ”、「脚立・踏み台・足場」から“落ちる”。

